

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和6年5月15日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	本会：ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール 検討部会： 【保育・教育部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 第一会議室 【放課後児童対策部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 食育ルーム 【子育て支援事業部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、阿部委員、飯島委員、勝見委員、金委員、小宮山委員、清水委員、高井委員、土屋委員、西澤委員、宮本委員、山嵯委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、櫻井健康推進課長、久保田保育課長、翠川保育課保育担当 政策幹、上田障がい者支援課長、長田学校教育課長、加々井子育て・子育て支援課長、 戸谷母子・精神保健担当係長、中沢母子・精神保健担当係長、中村保育担当係長、大 木保育担当係長、原障がい者支援担当係長、宮下放課後こども育成係長、春原子育て・ 子育て支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、武井こども家庭福祉担当係 長、高寺発達相談センター次長、谷口子育て・子育て支援担当主査、北澤こども家庭 福祉担当主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	2人
8 会議概要作成年月日	令和6年5月21日

協議事項等

1 開 会	(加々井子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ	(室賀健康こども未来部長)
3 議 事	(1) 第3次上田市子ども・子育て支援事業計画策定スキーム 事務局から説明、質問・意見なし (2) 利用者意向調査等(ニーズ調査、ワークショップ)の結果について【資料1】【資料2】 事務局から説明、質問・意見なし (3) 教育・保育及び地域子ども子育て支援事業の「区域の設定」と「量の見込み」、「確保の方策」 について【資料3】 事務局から説明 (委員) 資料3の3(1)上田市における区域設定の①②、それぞれの主語は保護者か。 (事務局) ①は保護者、②は行政が主語となる。 (4) 地域子ども子育て支援事業の概要【資料4】 事務局から説明、質問・意見なし
4 その他	・検討部会協議について 事務局から説明、質問なし

・次回日程

令和6年7月29日（月） 午後1時30分から 健康プラザうえだ2階多目的ホール

5 検討部会協議

【保育・教育部会】

(1) 検討部会検討事項について

事務局から説明、質問・意見なし

(2) 区域の設定について

(委員)

本部会では、事務局提案の区域ごとに各サービスの必要量等を検討していくということか。

(事務局)

今後、事務局から検討に必要な数値等を提示するので、区域ごとのサービス必要量等を検討いただきたい。

(複数の委員)

市民としては、合併前の区域に馴染みがあり、事務局提案の区域設定は妥当だと考える。

(部会長)

区域設定については、4区域（上田・丸子・真田・武石）とすることに決定する。

(3) その他

・一時預かり事業について

(委員)

公立園における一時預かり事業実施園を集約したことについて、希望の園に空きがなく、他の園を利用せざるを得ない状況が生じていないか。

(委員)

一時預かり事業は、保護者のリフレッシュ等のための事業であり、当園（上田さつき保育園）にも問合せが多々ある。現在、可能な限り受入れているが、場合によっては、他園を案内している状況もある。関係者間では、例えば利用者が一時預かり実施園の空き状況を SNS 等で確認できる仕組みが必要だと話している。今後の部会において、実施園の配置状況や受入れができなかった場合の理由を分析するなど、必要量等を検討するのはいかがか。

(委員)

一時預かりのサービスと通常の保育サービスが別事業となっており、実施する側としては、事業費の算出等で事務負担が大きい。利用者の立場で考えれば、必要なサービスだが、保育士不足の中で、今後、実施予定の「こども誰でも通園制度」を含め、サービスの拡充は可能なのかという問題もある。

(委員)

部会では、実施事業の必要量等の議論だけでなく、サービスの中身の議論はできるか。

(事務局)

議論の趣旨は、計画の策定に沿ったものとさせていただき、その他事項として様々な御意見をお伺いしたい。次回の部会では、市内の保育園・幼稚園の位置図や、一時預かりに関する保育課で承知しているデータ等についても整理して提示したい。

・障がい児支援について

(委員)

障がいをお持ちの皆さんは、地域外の保育園に通園しているが多いため、地元小学校への入学を

スムーズに進められるように今後も支援をお願いしたい。

【放課後児童対策部会】

(1) 検討部会検討事項について

事務局から説明、質問・意見なし

(2) 区域の設定について

(委員)

児童クラブ等の利用区域は小学校通学としているが、その根拠は何か。

(事務局)

施設の性質上、在籍校から下校し徒歩で通所するものであり、安全性を担保するため小学校区で設定しており、協議事項の「区域」とは異なる。

(部会長)

協議事項については、事務局提案のとおり決定する。

(3) その他

・受け皿の混在や利用料について

(委員)

児童館・児童センター・児童クラブ・学童保育所が混在しており、利用者から施設の違いや内容が見えづらくなっているのではないかと。児童館は中高生の居場所となるべきだが、現状はそうになってなく、機能が十分活用できていない。また、児童館・児童センター・児童クラブ・学童保育所はそれぞれ利用料に相違があることから、世帯の所得に応じた費用負担に変更するなどはいかがか。

・量・ニーズやハード・ソフトについて

(委員)

定員が超過している現状があり、ハード面の整備が必要であり、また、長期休暇のみの利用者も一定数あり、対応の検討が必要である。なお、ハード面の整備が進んでも、「中身」のソフト面が充足されていなければ意味がなく、質の高い保育を提供することが必要である。

(部会長)

現場の貴重な意見でありますので、事務局は意見要望への対応を検討していただきたい。

【子育て支援事業部会】

(1) 検討部会検討事項について

事務局から説明、質問・意見なし

(2) 区域の設定について

(委員)

本部会で検討する各事業の区域設定は全て「市内全域」となっており、問題ないとする。なお、新たな事業については今後のニーズや量の見込みに合わせ、展開箇所数を検討していくという認識で良いか。今後もニーズの多様化によって国から新事業の提示があると思うが、相談場所を細分化することについては疑問を感じる。総合窓口のような役割の場所があり、その先が細分化されていくのは良いと思うので、上田市としての事業の在り方を検討すべきである。

(事務局)

新規の事業については、国の具体内容が見えていない部分もあり、都市と地方では現状が異なるなど、当市として計画に搭載するのかが検討も必要である。区域の設定としては、現状では「市内全域」より小さな単

位での設定は困難と考えている。

(部会長)

協議事項については、事務局提案のとおりとする。

(3) その他

・医療の現状について

(委員)

産後の支援は充実してきたと感じるが、妊婦健診の待ち時間が長く、長い場合では6時間ともお聞きしている。バースプランへの影響や母親のメンタルにも悪影響と思う。また、不妊治療の場も市内にはない。

(事務局)

妊婦健診の受診率向上を推進するためにも、情報共有してまいりたい。

(委員)

分娩施設が少なく、何とかしなければという話を今まで様々な会議でしているが、なかなか改善されていない。まず、出産があつての子育てと考える。三重県伊勢市は産科が充実していると聞く。

(事務局)

医師の確保という課題は従前からの問題として、これまで市として様々な取組を行ってきている。単純に解決できるものではないと医師の方々からもお聞きしている。全国的な医師不足の現状もあり、有効な対応策がない状況である。

・ファミリー・サポートセンター事業について

(委員)

ファミリー・サポートセンターを利用しているが、現行の利用料金で子どもを見ていただくというのは賃金面から見ても申し訳なく思ってしまう。子どもを預かるという責任のある中で、当該料金では提供会員不足を懸念する。

(事務局)

提供会員の方々はボランティア精神で行っている方が多いので、今後の検討課題としてまいりたい。

(委員)

もともとは会員同士で互いに子どもを見合っていたが、共働き等で需要が高まり、60歳以上の会員の方がお一人で何件も抱えているなど、事業継続を懸念せざるを得ない。更には、預かりに配慮の必要な子もいるなど、民間の力を借りるといった対応が必要な状況になってきている。

・子育て世帯訪問支援事業について

(委員)

当事業について、例えば「やどかりハウス」と連携するなど、民間の力を借りることについて、今後情報収集等検討いただきたい。

(事務局)

現状、対象者数とサポート数は充足しているが、今後、ニーズ増等によっては民間との連携も検討してまいりたい。

・子育て支援センターについて

(委員)

中央子育て支援センターではコロナ禍前はお昼を食べることができたが、現在は行っていない。友だちと一緒に食事をする経験をさせたい等の意見もあるので、参考にしていただきたい。

(事務局)

検討してまいりたい。

・量の見込みについて

(委員)

量の見込みについて、子どもが小さい時には乳児訪問等もあり情報提供が受けやすいが、子どもが大きくなると情報を受ける機会が少なくなるので、周知が少ないところにニーズを聞くのはいかがかと感じた。

(事務局)

次回会議において、量の見込みの計算方法等御説明を予定している。

6 各部会閉会